



保育随想

★一人ひとり！

スマップの歌に、世界に一つだけの花と言う曲がありました。

花屋の店先に並んだ いろんな花を見ていた ひとそれぞれ好みはあるけど どれもみんなきれいだね この中でだれが一番だなんて争うこともしないで バケツの中誇らしげに しゃんと胸を張っている それなのに僕ら人間は どうしてこうも比べたがる？

そうさ僕らは 世界に一つだけの花 一人ひとり違う種を持つ その花をさかせることだけに 一生懸命になればいい 小さい花や大きな花 一つとして同じものはないから

No.1にならなくてもいい もともと特別な only one ラララララ

幼稚園生活の全てに流れる、ずっと続けて来た精神であります。取り分け集団で行う全体の行事や活動では、集団の流れに目が行き、個々との対話が不足しがちな状態にも陥りやすくなることは、一方で気を付けなくてはいけないことであります。集団教育の効用を期待して、子ども達同士で支えあう中で楽しくも、意欲を育てる生活であり、行事でありたいと思います。何人いても一人ひとりの一対一から集団も始まるのです。一人ひとりを良く知ることは保育の世界に限ったことではありませんが、生きる上で何よりの喜び、そして、これからは続く大事な柱と位置付けて、周囲との距離感や心情を思いやる学びを、失敗しながらも繰り返し、歓びを見付け意欲につないで居る子ども達です。トラブルの解決にも、大人が裁判官のスタンスだけでは、子どもの気持ちは収まりません。解決にはなりません。それぞれの事情に寄り添ってくれる人がいて、その時に心は動き、考えるきっかけになります。人は生きる力が備わっているものです。その時の状況や関わりにも、きっと冷静に自分で評価できる時がやってきますので、少し先を見ながら関わって行く必要がある場合も多々出てきます。出来るか出来ないかではなく、どの様に向き合うかを一緒に考えてくれる隣人が、その時に必要とされる存在であることを思うとき、謙虚な姿勢で寄り添う存在でありたいと思うのです。経験することに無駄はないと言われますが、悩み苦しんでいる人に気付き、前に歩き出せない姿を今一度、思い起こして、一緒に生きる気持ちを忘れないで生きていきたいものです。一人ひとりが、特別な only one なのですから。

三日後に迫った運動会ですが、コロナ禍ではありますが、幼稚園で生活する子ども達は、お陰様で感染はしておりません。そして、お子さんを送り出して頂く、ご家族の皆さまも、当然、その兆候もなく感染とは縁のない方々です。園庭にお集まり頂くお子さんとご家族のみの催しとして、幼稚園生活の延長線上での総合活動として、思う存分運動会を楽しみ経験して貰う気持ちで、活動してまいりました。先にご案内した通り留意すべきことには、配慮して、保護者の皆さまの協力の中で、子ども達の運動会を体験させて頂きたくお願い申し上げます。運動会の体験は、友達と仲良く生活することの喜びを感じてくれることでしょうか。

一人ひとりの運動会に挑戦させてあげてください。